



滋賀県議会議員

た な か ま つ た ろ う

田中松太郎

プロフィール ■ 1972年 滋賀県甲賀市生まれ ■ 甲賀市甲賀町 在住 ■ 環境・農水常任委員会、行財政・働き方改革特別委員会 委員長

今年の世相を表す漢字に「災」が選ばれました。災害が多発した一年であり、私も駅頭での募金活動のほか、岡山、広島へ災害ボランティアにも行きました。災害から地域を守る施策を充実させてまいります。皆様には自らの命を自ら守る備えを是非お願いします。



田中松太郎 事務所 甲賀市水口町北脇436-1 TEL.0748-63-5340/FAX.0748-63-5341

田中松太郎 検索

米国ミシガン州姉妹提携50周年記念訪問

9月5日から10日までの6日間、ミシガン州と滋賀県の姉妹提携50周年を記念し、滋賀県議会議員団として川島議長、柴田議員、木沢議員、駒井議員と共にアメリカ、ミシガン州を訪問してまいりました。

1968年にミシガン州と姉妹提携を行った以来、文化、教育、経済など多くの分野で互いの交流を重ねてきました。県議会としても、両県州が今後ますます交流を深め相互に発展するため、また両議会の議員同士が今後継続的に交流を続けるきっかけをつくるため訪問を行いました。



ミシガン州会議事堂



ケーン・ホーン議員



ミシガン州議会上院議会 ケーン・ホーン議員と

まず、ミシガン州議会へは今回滋賀県議会として初めて公式に訪問を行いました。州議会は選挙前であり、多くの議員とお会いすることは出来ませんでした。上院議会のケーン・ホーン議員と経済、観光、雇用等をテーマに、県と州の抱える課題や今後の交流の方向性について、忌憚のない意見交換を行うことができました。特に2020年にはミシガン州アトロイトでアメリカ中西部の州政府評議会が行われるとのことであり、その



50周年式典会場にて 滋賀県三日月知事とミシガン州スナイダー知事

場で滋賀県の産業や観光を紹介するブースの出展ができればとの話がありました。今後の両議会の友好交流について、合意書の締結には至りませんでした。締結に向けた当県議会の想いをお伝えし、信書として手渡してまいりました。ホーン議員からは、合意書の締結は、州議会としても大事だと考えているとの非常に前向きな意見をいただき、両議会共に共通の認識を持ったところです。

また、ミシガン州主催による50周年記念式典は、両知事をはじめ、姉妹都市の代表、経済団、県民使節団とホストファミリー、高校生等が出席し、50周年を飾るにふさわしい盛大で華々しい式典となりました。



ミシガン湖フィールドワーク



ミシガン湖フィールドワーク

さらに、ミシガン湖のフィールドワークを行い、湖を調査・管理する州政府機関の代表から、外来種被害や環境問題の現状と課題および対策についての説明を受けました。



ウェスタン・ミシガン大学

あわせてウエスタン・ミシガン大学とミシガン州立大学連合日本センターを訪問し、国際バカロレアプログラム等を通じた、両県州の高校生、大学生交流事業について、将来に向けた積極的な取り組みを促進していくということになりました。

今回の訪問は、移動を除く3日間で13プログラムをこなすという非常にハードなスケジュールでありましたが、これを通じて両県州として両議会がこれまでの50年の歴史を振り返り、改めて相互に理解を深め合うことができました。そして、次の50年に向けて更なる友好関係を築く足掛かりとなり、有意義で素晴らしい訪問となりました。



ミシガン州立大学連合日本センター

西日本豪雨 災害ボランティア

今年には豪雨、地震、竜巻など各地で災害が多発する年でした。私も微力ながら災害支援の募金活動を駅頭で行ったほか、岡山、広島へ現地支援にも行ってまいりました。

7月16日(月祝) 岡山県総社市下原地区

猛暑と戦いながら

岡山県倉敷市の真備町では小田川の氾濫により多くの犠牲者が発生しました。その様子はテレビ、新聞等で大きく報じられ全国から多くのボランティアが真備町へ支援に入っております。

その真備町と隣接する総社市もテレビ、新聞ではあまり報道されていませんでしたが甚大な被害を受けており、ボランティアが不足している状況でした。特に総社市下原地区では高梁川が氾濫し、近くのアルミ工場のアルミ溶解炉に流れ込んだ水が化学反応を起こし、工場の大規模な爆発火災事故が発生。付近は水害に加えて爆風による被害が広範囲に及んでいました。多数のけが人は出たものの死者が出なかったのが幸いで、現地入りした私は熱中症対策をしながら水害による民家の土砂の撤去と、爆風によるがれきの撤去作業を行いました。

8月13日(月) 広島県安芸郡坂町小屋浦地区

高2の長男とともに

夏休みということもあり、高校2年生の長男を引き連れて広島へ。土砂崩れで道路が寸断されていた関係で、災害発生から1か月以上たってもまだ復旧が遅れている安芸郡坂町の小屋浦地区へ行ってきました。



天地川の河口から1300メートル上流の砂防ダムが崩壊し、土石流が集落を襲い地区全体で15人が死亡、1人が行方不明に。16人の平均年齢は78歳だったことで、この日も40度近い猛暑のなか、行方不明者の捜索とともに、私と長男は民家の1階の天井近くまで入り込んだ土砂の撤去作業にあたりました。